

HOLLYWOOD 150 YEARS / VOL.1

スクリーンは 女の身体を どう見てきたか

男の欲望、女の憧れ、そして本人の身体へ
無声映画のトップ女優から2026年まで



著者 Hiro

| Hiroharbor 新書

| VISUAL REPORTAGE

スクリーンは女の身体をどう見てきたか

ハリウッド映画150年史 第一巻

1876—2026を視野に、スター時代を1910年代から追う

読者への約束

本書は実在女優の体型を評価・序列化するものではない。映画、衣装、画角、宣伝イメージ、産業統計を通じ、スクリーン上で制作されたシルエットを考察する。復元画像は実在人物の肖像ではない。

美の歴史ではなく、視線の歴史へ

無声映画のスターは、顔と手で物語を運んだ。1920年代、脚は都市の速度になった。1930年代、大恐慌の外側でサテンは流線形の夢を作った。戦時には肩と脚、戦後には胸・腰・ヒップと細い首。1980年代には筋肉、2000年代には常時比較、そして2020年代には年齢や疲労までが人物の情報として残り始める。

この変化を「昔は豊満、今は細身」と一行で片づけると、最も重要なものが消える。身体はいつも、衣装・カメラ・物語・市場・規制の共同制作だった。

測らずに、輪郭を読む

身長、体重、スリーサイズを並べても、映画史は説明できない。同じ女優でも、レンズ、姿勢、衣装、照明、画面比率で見える身体は変わる。本書は数値ではなく「何が強調されたか」を追う。

顔

人格とブランド

全身

社会的地位

パーツ

欲望と宣伝

動き

能力と主体

余白

生活と内面

四つのレンズを重ねる

01 画面

顔・全身・パーツ・動き。カメラが残した順序を読む。

02 衣装

布、線、光、姿勢。体型を発明する設計を読む。

03 産業

規制、予算、ジャンル、宣伝、配給。安全な魅力の選別を読む。

04 観客

欲望、憧れ、模倣、拒否。意味が受け手で変わる過程を読む。

年代編

 1910s 顔と手が、人格をつくった	009	 1970s 服の余白が、人物を前へ出した	081
 1920s 短い髪と脚が、速度をまとった	021	 1980s 鍛えた身体が、自己管理を語った	093
 1930s 不況は、流線形の夢を売った	033	 1990s 世界市場へ、長い線と顔	105
 1940s 肩と脚が、勝利を約束した	045	 2000s デジタル視線が、身体を監視した	117
 1950s 豊かさは、二つの理想を並べた	057	 2010s フランチャイズは、機能する身体	129
 1960s 長い脚と速度が、若さになった	069	 2020-2026 理想体型より、役を生きる身体へ	141

横断編

	男性に魅せる身体 THE GAZE 01	153
	女性に見せる身体 THE GAZE 02	160
	女性自身を見せる身体 THE GAZE 03	167
	景気は、身体の夢を変える ECONOMY	174
	「理想」の外側に置かれた人々 OUTSIDE THE IDEAL	181
	複数の中心、なお不安定 2026 SNAPSHOT	188

この本の読み方

各年代は12ページで構成する。扉、代表スター、輪郭、カメラ、衣装、経済、観客、対抗像、排除、一場面、総括、資料。繰り返し同じ問いを当てることで、時代差を比較できるようにした。

事実と解釈

固有名詞・産業統計・制度史は章末資料へ接続する。シルエットや視線の意味づけは本書の比較分析であり、統計的な身体測定ではない。
情報は2026年7月30日時点。

顔と手が、人格をつくった

無声映画では、身体全体の寸法より、顔の可読性と手の身振りが重要だった。
少女らしさ、聖性、妖婦性は、生身の体型そのものではなく、衣装・照明・演技の記号として組み立てられた。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

Mary Pickford／Lillian Gish／Theda Bara／Asta Nielsen

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

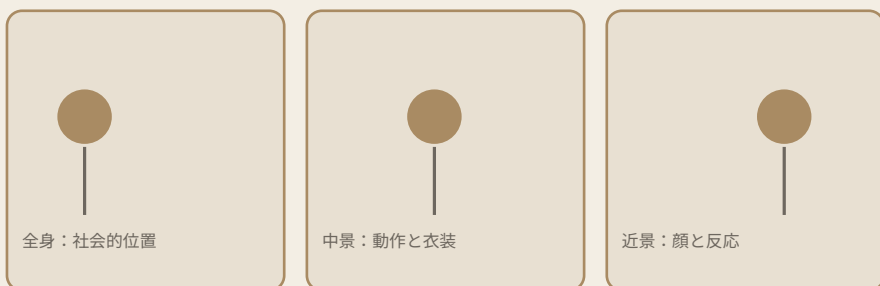
高いウエスト、落ちる白布、細長い縦線。輪郭は身体を露出するためではなく、顔へ視線を運ぶ額縁として働いた。

強調点

顔・目・手・髪

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体はどこを文章にしたか



正面性の強い画面、アイリス、静かなクローズアップ。微細な表情が大きな劇場でも読めるよう、身体の動きは句読点として設計された。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1910sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

レース、白いドレス、長い袖は無垢を可視化し、濃いメイクと異国趣味の衣装はヴァンプを作った。同じ身体でも布と光で道徳的役割が反転する。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

都市の映画館網とスター・システムが急成長し、名前そのものが興行価値になった。量産体制は、遠くからでも一目でわかる人物類型を必要とした。

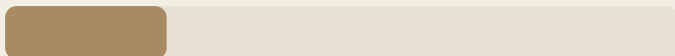
現実への近さ



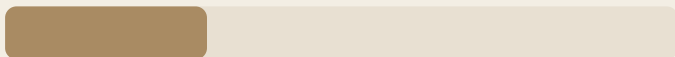
衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性観客はスターの服装と振る舞いを読む積極的な受け手でもあった。Pickfordの事業家としての力は、女性スターが単なる被写体ではなかったことを示す。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

高いウエスト、落ちる白布、細長い縦線。輪郭は身体を露出するためではなく、顔へ視線を運ぶ額縁として働いた。

COUNTER

Pickfordの永続する少女像とBaraのヴァンプは対極に見える。だが両方とも、女性をすぐ理解できる物語記号へ圧縮する仕組みに支えられていた。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

白人性と若さが「普遍」の顔として置かれ、非白人女性は異国性や脅威として類型化された。残存フィルムの偏り自体も、歴史の見え方を制約する。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



『Tess of the Storm Country』を想起する。汚れた環境と柔らかな顔、身体を覆う衣装の対比が、人物の内面を輪郭より先に観客へ届ける。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「ハリウッドは最初に、顔をブランドへ変えた。以後の身体史は、顔から視線をどこへ移し、また戻したかという編集史でもある。」

無声映画では、身体全体の寸法より、顔の可読性と手の身振りが重要だった。少女らしさ、聖性、妖婦性は、生身の体型そのものではなく、衣装・照明・演技の記号として組み立てられた。

KEYWORDS

クローズアップ／身振り／少女像／ヴァンプ／スター・システム

資料と検証の入口

S01 Library of Congress | Mary Pickford: Queen of the Movies

S02 Library of Congress | The Survival of American Silent Feature Films

S03 National Film Registry | Tess of the Storm Country

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

顔と手が、人格をつくった。強調点は顔・目・手・髪。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

短い髪と脚が、速度をまとった

フラッパーの直線的なシルエットは「曲線の消失」ではなく、歩く・踊る・運転する都市生活の速度を売る形だった。身体の魅力は静止した鑑賞物から、移動のリズムへ移った。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

Clara Bow／Louise Brooks／Colleen Moore／Anna May Wong

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

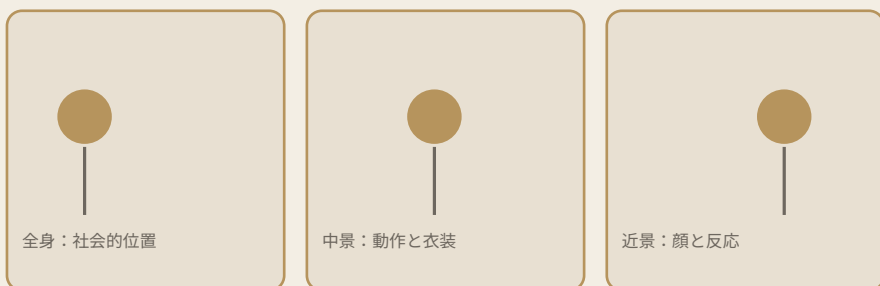
低いウエスト、平らな前面、膝下の可視化、ボブヘア。長い胴と細い脚を一続きの線として見せ、若さを機敏さとして表現した。

強調点

脚・膝・首・短い髪

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



ダンス、階段、車、群衆の中で全身を動かす。編集は脚の反復と顔の反応を結び、性的魅力とコメディのテンポを同じリズムに載せた。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1920sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

フリンジ、ビーズ、短い裾は動いた瞬間に完成する衣装だった。コルセットからの解放感を演出しつつ、細い直線という別の規範も生んだ。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

第一次大戦後の消費文化、百貨店、化粧品、雑誌、電化製品。映画スターは新しい商品と都市的ライフスタイルを接続する広告媒体になった。

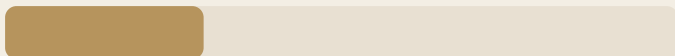
現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

若い女性はフラッパーを、男性のための見世物だけでなく、親世代の規範を破る身振りとして読んだ。模倣と反発が同時に市場を拡大した。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

低いウエスト、平らな前面、膝下の可視化、ボブヘア。長い胴と細い脚を一続きの線として見せ、若さを機敏さとして表現した。

COUNTER

Clara Bowの親密な活力と Louise Brooksの硬質な幾何学は同じではない。Anna May Wongは洗練を体現しながら、人種化された役の範囲に閉じ込められた。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

「新しい女」の自由は、階級・人種・都市居住によって不均等だった。白人フラッパーが近代性の標準になり、非白人スターの近代性は異国趣味へ回収された。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



『It』型の画面では、Bowの魅力は静止画の比率より、入室し、笑い、視線を返す一連の動作にある。身体は欲望の対象であると同時に場面のエンジンだ。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「脚は単独のパーツではなく、自由に移動できる女性の記号になった。だが自由が流行になると、それを着こなせる細さも商品化された。」

フラッパーの直線的なシルエットは「曲線の消失」ではなく、歩く・踊る・運転する都市生活の速度を売る形だった。身体の魅力は静止した鑑賞物から、移動のリズムへ移った。

KEYWORDS

フラッパー／直線／脚／速度／都市消費

資料と検証の入口

S04 Library of Congress | Film & Sound Festival / Clara Bow

S11 Smithsonian | Anna May Wong

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

短い髪と脚が、速度をまとった。強調点は脚・膝・首・短い髪。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

不況は、流線形の夢を売った

大恐慌下のスクリーンは、現実の不足と逆方向へ伸びた。バイアスカット、裸の背中、長いドレープは、身体を高価な光の流線へ変え、劇場だけで触れられる余剰を作った。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

**Greta Garbo／Marlene Dietrich／Jean Harlow／Mae West／
Katharine Hepburn**

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

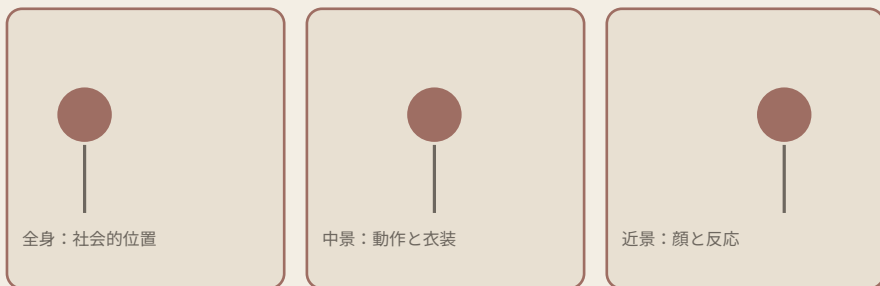
床まで落ちる細長い線と、腰・背中に集まる光。曲線は量感ではなく、生地が身体を滑る軌跡として見せられた。

強調点

背中・腰・肩・唇

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



柔らかな拡散光と斜めの姿勢が、顔と身体を一本のS字へ結ぶ。クローズアップは唇と目を商品化し、全身ショットは衣装の落下を見せた。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1930sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

サテン、バイアスカット、毛皮、男性用スーツ。Adrianらの衣装設計は欠点を隠すというより、スターごとに異なる記憶装置を作った。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

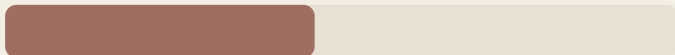
景気は、どんな夢に資金を出したか

失業と緊縮の時代に、豪華なミュージカルとスター衣装が安価な逃避を提供した。実生活で買えないもののほど、画面上では明確な輪郭を必要とした。

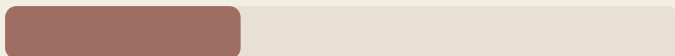
現実への近さ



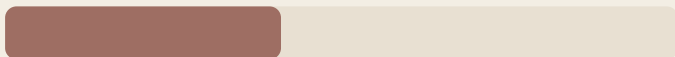
衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性観客はドレスを眺めるだけでなく、DietrichやHepburnのスーツから性別役割をずらす可能性も読んだ。憧れは従順だけを意味しない。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

床まで落ちる細長い線
と、腰・背中に集まる
光。曲線は量感ではな
く、生地が身体を滑る
軌跡として見せられた。

COUNTER

Harlowの輝く曲線、
Garboの閉じた顔、West
の言葉と腰、Hepburnの
パンツ。単一の理想に見
える1930年代にも、スター
像は複数の交渉を含んだ。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じ
ページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

Production Codeの本格運用は、性的主体性の表現を狭めた。人種間関係やクィアな含意も画面外へ押し出され、白人女性の洗練が中心化された。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



Pre-CodeのMae Westは、身体を見られるだけでなく、台詞のテンポで視線を支配する。規制後、同じ曲線はより道徳的な物語の枠内に置かれる。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「経済的苦境は必ず「健康的な体型」を生むわけではない。不足の時代ほど、到達不能な滑らかさが夢として売られることがある。」

大恐慌下のスクリーンは、現実の不足と逆方向へ伸びた。バイアスカット、裸の背中、長いドレープは、身体を高価な光の流線へ変え、劇場だけで触れられる余剰を作った。

KEYWORDS

大恐慌／バイアスカット／背中／Pre-Code／Production Code

資料と検証の入口

S05 The Met | Dressing for the Cocktail Hour

S07 Library of Congress | When Pre-Met Code

S08 National Film Registry | She Done Him Wrong

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

不況は、流線形の夢を売った。強調点は背中・腰・肩・唇。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

肩と脚が、勝利を約束した

戦時の女性像は、働く身体と慰問される視線の二重構造を持った。強い肩、絞った腰、見える脚は、実用性・愛国心・性的魅力を同じシルエットへ接続した。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

Rita Hayworth／Betty Grable／Ingrid Bergman／Katharine Hepburn／Lena Horne

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

角張った肩、短く実用的な丈、明瞭な腰、安定した脚。上半身の構造と下半身の軽快さが、頼もしさと親しみを両立した。

強調点

肩・腰・脚・髪

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体はどこを文章にしたか



ピンナップは一枚で脚線と笑顔を固定し、映画はダンスや歩行でそのイメージを反復した。ノワールでは影が身体を分断し、危険な欲望を作った。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。
1940sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

物資制限は布量を抑え、テーラリングを強めた。軍服的な肩と女性的な腰の対比は、非常時の規律を魅力へ変換した。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

総力戦の生産体制は女性労働を拡大し、映画産業は士気高揚と海外への文化輸出を担った。スターの身体は国家的メディアにもなった。

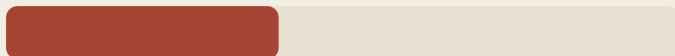
現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

男性兵士向けのピンナップは明白な男性視線を持つ。一方、女性観客は仕事着、強い姿勢、自立した会話から別のモデルを受け取った。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

角張った肩、短く実用的な丈、明瞭な腰、安定した脚。上半身の構造と下半身の軽快さが、頼もしさと親しみを両立した。

COUNTER

Grableの親しみやすい脚、Hayworthの官能、Bergmanの自然さ、Hepburnの知性は同じ規格ではない。戦時の統一感の下にも、異なる身体言語が存在した。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

Lena Horneのスター性は人種隔離された興行・配役の制約と隣り合わせだった。
非白人女性は国家の理想像に参加しながら、その中心から外された。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



『Down Argentine Way』の色彩とダンスは、脚を国境を越えるリズムへ変える。一方、戦時写真の一ポーズは動きを止め、身体を携帯可能な慰めへする。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「肩は力、脚は希望という分業が生まれた。女性の実務能力を認めながら、戦後には再び家庭的曲線へ戻す準備も進んでいた。」

戦時の女性像は、働く身体と慰問される視線の二重構造を持った。強い肩、絞った腰、見える脚は、実用性・愛国心・性的魅力を同じシルエットへ接続した。

KEYWORDS

戦時体制／ピンナップ／ユーティリティ／肩／脚

資料と検証の入口

S09 National Film Registry | Down Argentine Way

S10 National WWII Museum | Decoding WWII Plane Nose Art

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

肩と脚が、勝利を約束した。強調点は肩・腰・脚・髪。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

豊かさは、二つの理想を並べた

カラーとワイドスクリーンは、胸・腰・ヒップの立体感を拡張した。しかし同時に、Audrey Hepburn型の細い首と軽い身体も支持された。戦後の美は一枚岩ではない。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

**Marilyn Monroe／Elizabeth Taylor／Sophia Loren／Audrey
Hepburn／Dorothy Dandridge**

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

砂時計型の曲線と、ガミースの細い縦線。対立する二つの輪郭が、同じ消費社会の中で「女らしさ」の選択肢として売られた。

強調点

胸・腰・ヒップ／首・足首

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



CinemaScopeやカラーは生地と肌の質感を増幅し、クローズアップはスターの顔を巨大化した。身体のパーツはポスターと予告編で切り出された。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1950sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

円錐形ブラ、コルセット、細いウエスト、フルスカート。対極には黒い細身服、短い髪、フラットシューズがあり、少女性と洗練を結んだ。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

郊外化、家電、ベビーブーム、テレビとの競争。映画館は家庭にない色・幅・豪華さを提示し、女性の身体を大画面の差別化装置にした。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

男性向けのセクシーさと、女性向けの服装・生活様式の提案が同じスターに重なった。観客はMonroeを欲望し、Hepburnを模倣する、と単純には分けられない。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

砂時計型の曲線と、ガミーヌの細い縦線。対立する二つの輪郭が、同じ消費社会の中で「女らしさ」の選択肢として売られた。

COUNTER

Monroeの曲線は無抵抗な商品ではなく、コメディのタイミングで男性の視線を露呈させる。Dandridgeの中心性は画期的だったが、役の幅は白人スターより狭かった。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

人種間結婚規制、スタジオの配役慣行、年齢規範。白人の若い身体が「普遍」とされ、有色人種女性の官能は危険・異国・悲劇へ結びつけられやすかった。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



赤い絨毯の曲線と、ローマの街を歩く細い身体。1950年代の魅力は量感の勝利ではなく、異なる観客欲望を二つの輪郭へ整理した編集にある。

見る順序

☒ 人物は何をするか ☒ 衣装は何を可能にするか ☒ カメラはどこで止まるか ☒ 物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「後世が「黄金比」として回顧する時代ほど、実際には競合する理想があった。ノスタルジーは複数性を一つの砂時計へ縮めてしまう。」

カラーとワイドスクリーンは、胸・腰・ヒップの立体感を拡張した。しかし同時に、Audrey Hepburn型の細い首と軽い身体も支持された。戦後の美は一枚岩ではない。

KEYWORDS

ワイドスクリーン／砂時計／ガミーマ／郊外化／二重理想

資料と検証の入口

S05 The Met | Dressing for the Cocktail Hour

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S13 Cambridge | Postwar Challenges to Hollywood

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

豊かさは、二つの理想を並べた。強調点は胸・腰・ヒップ／首・足首。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

長い脚と速度が、若さになった

ミニ丈と細い全身線は、1950年代の成熟した曲線から距離を取った。身体は繁栄の量感より、若者文化・都市移動・宇宙時代の速度を象徴した。



代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

**Audrey Hepburn／Jane Fonda／Elizabeth Taylor／Raquel Welch／
Diahann Carroll**

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

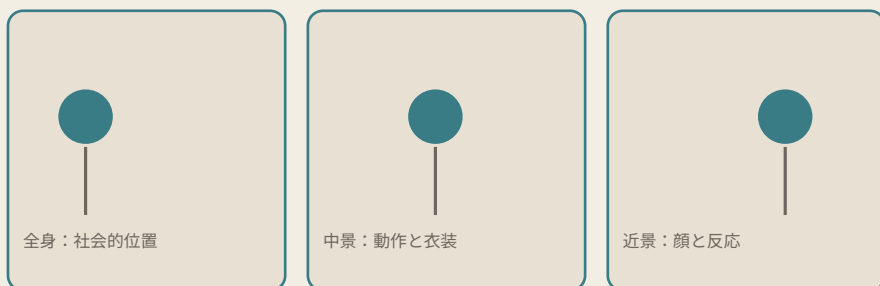
細い首、短い裾、長い脚、幾何学的な全身。ポーズより歩行、重量感より軽さが、若さの可視的な基準になった。

強調点

首・肩・長い脚・歩行

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



ロケ撮影、ズーム、素早いカットが身体を都市景観へ放つ。静止した女神ではなく、フレームを横切る人物が魅力になる。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1960sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

ミニドレス、カラーブロック、ブーツ、宇宙服的素材。衣装は身体の曲線を描くより、身体を新しい時代の標識へ変えた。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

テレビ普及で旧スタジオ体制が揺れ、若年市場が重視された。消費の中心としての若者像が、年齢と細さを強く結びつけた。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性解放の言葉が広がる一方、解放された外見も商品化された。短い裾は動きやすさと自己決定の記号であり、同時に新しい評価対象でもあった。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

細い首、短い裾、長い脚、幾何学的な全身。ポーズより歩行、重量感より軽さが、若さの可視的な基準になった。

COUNTER

Taylorの豊かな存在感、Welchの胴体、Hepburnの細い線、Fondaの遊戯性。時代の代表像を一人へ還元すると、曲線と細さの並存を見落とす。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

若さの中心化は中年以降の女性を周縁化した。Diahann Carrollの洗練は可視性を拡大したが、人種を超えた配役の常態化には至らなかった。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



街を軽く移動する服と、宇宙空間で身体を見世物化する服。同じ「未来」が、主体的な移動と男性視線のファンタジーを両方生む。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「細さは単なる体重ではなく、速度・若さ・国際性の記号になった。この連結は以後のファッション映画と広告に長く残る。」

ミニ丈と細い全身線は、1950年代の成熟した曲線から距離を取った。身体は繁栄の量感より、若者文化・都市移動・宇宙時代の速度を象徴した。

KEYWORDS

若者市場／ミニ／長い脚／宇宙時代／移動

資料と検証の入口

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S13 Cambridge | Postwar Challenges to Hollywood

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

長い脚と速度が、若さになった。強調点は首・肩・長い脚・歩行。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

服の余白が、人物を前へ出した

ニュー・ハリウッドのロケ撮影と自然主義は、完璧な輪郭より、疲労・知性・生活の姿勢を撮った。パンツや重ね着は身体を消すのではなく、場を支配する方法を変えた。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

Faye Dunaway／Jane Fonda／Diane Keaton／Pam Grier／Ellen Burstyn

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

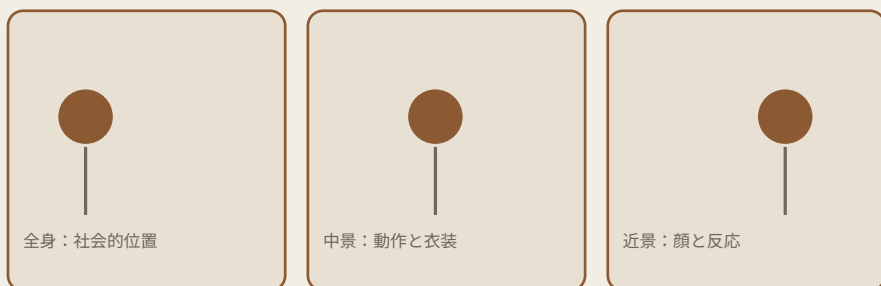
細い緊張、長いジャケット、ゆるいパンツ、自然な髪。輪郭の余白が人物の思考と歩幅を見せ、スター像を生活空間へ近づけた。

強調点

姿勢・歩幅・髪・服の余白

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



手持ち、自然光、ロケーション。身体はスタジオの均一な照明から離れ、街の寒さ、部屋の狭さ、時間の経過を引き受ける。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。
1970sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

メンズウェア、ニット、レイヤー、実用品。衣装は理想化の彫刻ではなく、人物がどこで働き、何を考えるかを示す証拠へ変わった。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

インフレ、石油危機、都市不安、旧スタジオの再編。豪華な逃避より、現実に触れる物語が価値を持ち、身体にも生活の摩擦が残った。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

第二波フェミニズムは、誰が見るかだけでなく、女性が何をするかを問うた。観客は服を真似ると同時に、仕事・会話・拒否の仕方を読む。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

細い緊張、長いジャケット、ゆるいパンツ、自然な髪。輪郭の余白が人物の思考と歩幅を見せ、スター像を生活空間へ近づけた。

COUNTER

Keatonの知的な重ね着とGrierの身体的主導権は異なる戦略だ。露出が少なければ主体的、多ければ客体的、という単純な図式を崩す。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

Blaxploitationは黒人女性の行動力を可視化した一方、性的商品化にも依存した。白人中心の批評がPam Grierの複雑さを周縁へ置くこともあった。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



『Annie Hall』の服は身体を覆うが、人物の知性と不安を前景化する。『Foxy Brown』では身体が危険を突破する力であり、同時に売り文句でもある。

見る順序

☐人物は何をするか ☐衣装は何を可能にするか ☐カメラはどこで止まるか ☐物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「魅力は輪郭から人物へ移ったのではない。輪郭が人物の情報を運び始めた。自然さもまた、撮影・衣装・演技によって丁寧に作られる。」

ニュー・ハリウッドのロケ撮影と自然主義は、完璧な輪郭より、疲労・知性・生活の姿勢を撮った。パンツや重ね着は身体を消すのではなく、場を支配する方法を変えた。

KEYWORDS

ニュー・ハリウッド／自然主義／パンツ／姿勢／第二波

資料と検証の入口

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S13 Cambridge | Postwar Challenges to Hollywood

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

服の余白が、人物を前へ出した。強調点は姿勢・歩幅・髪・服の余白。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

鍛えた身体が、自己管理を語った

フィットネス文化、高概念型映画、企業社会は、細さへ筋肉と規律を加えた。女性の身体は見られる物であるだけでなく、危機を突破し成果を出す道具として撮られた。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

**Sigourney Weaver／Jane Fonda／Michelle Pfeiffer／Meryl Streep
／Whoopi Goldberg**

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

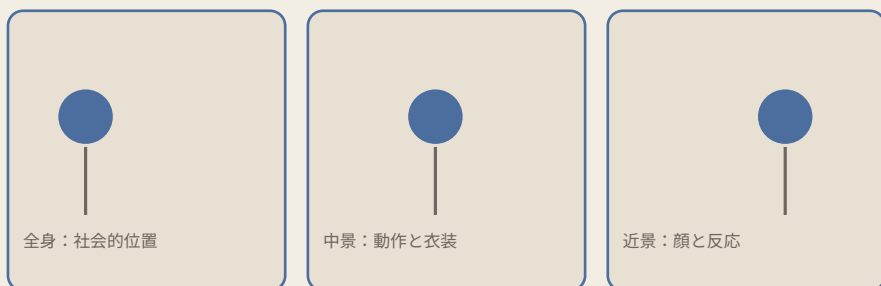
広い肩、絞った腰、見える腕と脚の筋肉、パワースーツ。輪郭は職場の権限と自己統制を同時に語った。

強調点

肩・腕・体幹・筋肉

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



アクション場面は走行、懸垂、反撃を全身で見せる。トレーニング映像は反復可能な手順へ身体を分解し、家庭内メディアへ配布した。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1980sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

肩パッド、レオタード、ベルト、硬い光沢。職業服と運動服が、身体は計画し改善できるプロジェクトだという思想を共有した。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

金融化、消費拡大、VHS市場、ブランド化。成功は個人の努力で獲得するという物語が、身体管理の道徳へ入り込んだ。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性向けエクササイズは身体的自信とコミュニティを生み、同時に常時改善の圧力も強めた。主体化と監視は同じ商品に同居した。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

広い肩、絞った腰、見える腕と脚の筋肉、パワースーツ。輪郭は職場の権限と自己統制を同時に語った。

COUNTER

WeaverのRipleyは筋肉を誇示するためだけでなく、仕事を遂行する身体として記憶される。Goldbergは既存の美女類型から外れた声と動きを中心へ運んだ。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

「鍛えれば到達できる」という語りは、階級、時間、障害、遺伝的差異を見えにくくする。中年以降の女性は、権威を持つほど性的中心から外されやすかった。

人種

誰が普遍とされたか

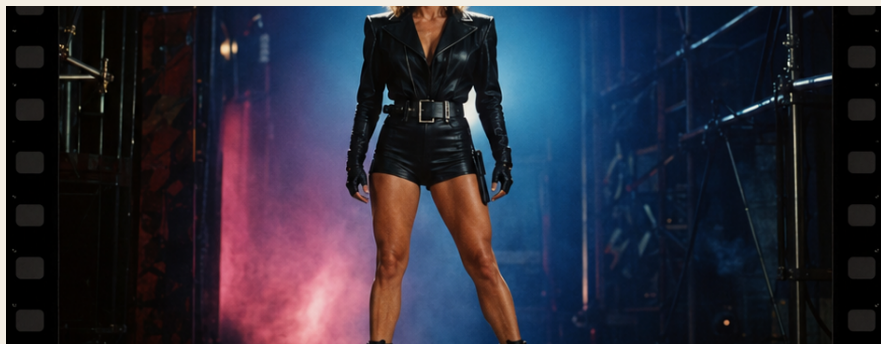
年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



『Aliens』型の画面で重要なのは、身体が危機に耐える説得力だ。だがポスターや雑誌は、その機能を再び肩・腕・腰の記号へ圧縮する。

見る順序

☐ 人物は何をするか ☐ 衣装は何を可能にするか ☐ カメラはどこで止まるか ☐ 物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「強さは美の外部ではなく、美の条件になった。2010年代のアクション身体は、この時代の細さ＋筋力という二重要求を受け継ぐ。」

フィットネス文化、高概念型映画、企業社会は、細さへ筋肉と規律を加えた。女性の身体は見られる物であるだけでなく、危機を突破し成果を出す道具として撮られた。

KEYWORDS

フィットネス／パワースーツ／筋力／VHS／自己管理

資料と検証の入口

S06 The Met | Adrian suit, 1948

S16 NIH | Women and resistance-training history

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

鍛えた身体が、自己管理を語った。強調点は肩・腕・体幹・筋肉。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

世界市場へ、長い線と顔

グローバル広告、スーパーモデル文化、巨大化する公開規模は、全身の長い線と一瞬で識別できる顔を結びつけた。スターは国境を越えるロゴになった。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

**Julia Roberts／Sharon Stone／Demi Moore／Angela Bassett／
Jennifer Lopez**

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

長い脚、引き締まった腹部、シンプルなドレス、大きな笑顔。情報を削った輪郭ほど、ポスターと海外市場で素早く読まれた。

強調点

長い全身線・笑顔・腹部・ヒップ

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体はどこを文章にしたか



レッドカーペット、ミュージックビデオ、雑誌表紙が映画外の身体像を増幅した。顔のクローズアップと全身写真がブランドを二重に固定する。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。1990sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

スリップドレス、ミニマルなスーツ、スポーツウェア。布の装飾を減らすほど、身体の線と着る人の名前が前へ出た。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

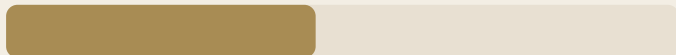
景気は、どんな夢に資金を出したか

多国籍配給、メディア複合企業、スター報酬の高騰。大予算映画は翻訳不要の身体的魅力と即時認知を求めた。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性誌とトークショーは服・恋愛・体型を連続した自己物語として扱った。観客はスターの作品だけでなく、私生活の変化も追うようになる。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

長い脚、引き締まった腹部、シンプルなドレス、大きな笑顔。情報を削った輪郭ほど、ポスターと海外市場で素早く読まれた。

COUNTER

Bassettの筋力、Lopezのヒップ、Robertsの笑顔は細長いモデル型だけでは説明できない。複数化は2000年代より前に、中心の内部で始まっていた。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

表象が増えても、黒人・ラティーナ女性は特定ジャンルや官能性へ分類されやすい。年齢とサイズの範囲は依然として狭かった。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



一枚の赤いドレス、一本の白いドレス、短い髪。映画の場面がファッション写真として再流通し、身体の輪郭だけが文化記憶に残る。

見る順序

☒ 人物は何をするか ☒ 衣装は何を可能にするか ☒ カメラはどこで止まるか ☒ 物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「スターの身体は作品の中だけに存在しなくなった。レッドカーペットと宣伝写真が、次のデジタル常時監視への橋を架けた。」

グローバル広告、スーパーモデル文化、巨大化する公開規模は、全身の長い線と一瞬で識別できる顔を結びつけた。スターは国境を越えるロゴになった。

KEYWORDS

グローバル化／レッドカーペット／長い線／腹部／スター・ブランド

資料と検証の入口

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S14 PubMed | Media exposure and body-image concerns

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

世界市場へ、長い線と顔。強調点は長い全身線・笑顔・腹部・ヒップ。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

デジタル視線が、身体を監視した

プレミア写真、タブロイド、24時間ニュース、初期SNS。スターの身体は作品内だけでなく、移動中まで評価される連続コンテンツになった。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

**Angelina Jolie／Halle Berry／Jennifer Lopez／Nicole Kidman／
Charlize Theron**

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

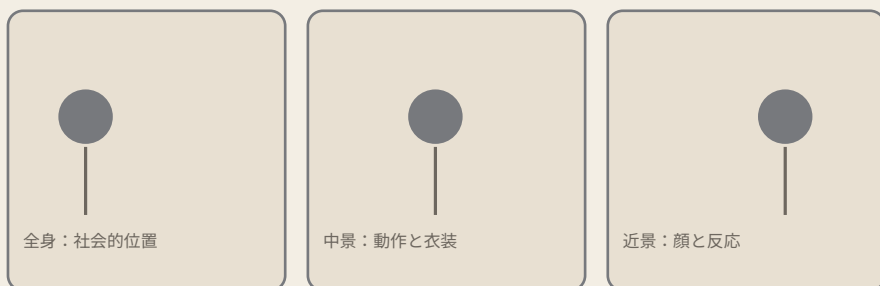
見える腹部、低いウエスト、硬い筋肉、極端な変身。全身像はパーツへ分割され、体重の増減自体が見出しになった。

強調点

唇・腹部・ヒップ・変身

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



高解像度の写真と大量複製が、映画用の照明から外れた身体を追う。比較画像は時間を圧縮し、変化を道徳的な物語へする。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。2000sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

ローライズ、ボディコン、アクション装備、裸に近いドレス。映画衣装と私服の境界が薄れ、日常までスタイリングの対象になった。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

メディア統合、セレブニュース、検索広告、DVDと世界同時公開。注目を回収する市場は、身体の微細な変化を低コストの話題へ変えた。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性向け媒体も監視装置の一部になった一方、曲線や筋力への支持は一つの細さへの抵抗を作った。評価と対抗言説が同じネットワークを流れる。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

見える腹部、低いウエスト、硬い筋肉、極端な変身。全身像はパーツへ分割され、体重の増減自体が見出しになった。

COUNTER

Theronの役作りは美からの逸脱として売られがちだが、本来は身体を演技の材料にする行為だ。JolieやBerryのアクション身体も装飾だけでは読めない。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

「変身できるプロ」が称賛されるほど、通常の老化・体重変動・障害は自己管理の失敗と見なされやすい。監視は平等に強まったわけではない。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



アクション場面の機能的な身体と、プレミア会場の静止した身体が同じ週に比較される。二つの文脈を切り離すこと自体がニュース商品になる。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「身体は映画の一部から、常時更新されるプロフィールへ変わった。2010年代のソーシャルメディアは、この比較回路を観客の日常にも配布する。」

プレミア写真、タブロイド、24時間ニュース、初期SNS。スターの身体は作品内だけでなく、移動中まで評価される連続コンテンツになった。

KEYWORDS

タブロイド／初期SNS／腹部／変身／常時比較

資料と検証の入口

S14 PubMed | Media exposure and body-image concerns

S15 NIH | Thin-ideal media exposure

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

デジタル視線が、身体を監視した。強調点は唇・腹部・ヒップ・変身。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

フランチャイズは、機能する身体へ

走る、戦う、耐える。女性スターの身体は物語を止める見世物だけでなく、巨大な物語を動かす運動能力になった。だが細さと筋力は同時に要求された。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

Scarlett Johansson／Jennifer Lawrence／Lupita Nyong'o／Gal Gadot／Margot Robbie／Viola Davis

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどこ。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

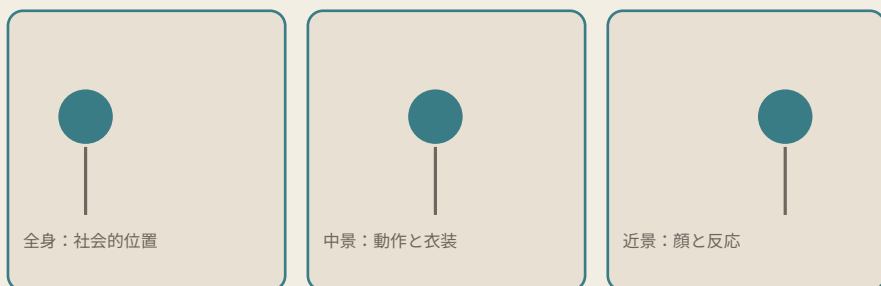
肩と体幹、ブーツ、戦闘姿勢、素早い移動。身体は役の機能を語る一方、衣装は依然として性的輪郭を強調することがある。

強調点

肩・体幹・走行・反応速度

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



長いアクション、VFX、スタント、モーションキャプチャ。身体は画面上の一点ではなく、複数部門が共同で作るパフォーマンス・データになる。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。2010sの美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

アーマー、ボディスーツ、実用靴、訓練着。機能性を主張しながら、男女で露出やヒールの条件が違う設計も残った。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

世界興収を前提にしたフランチャイズと知的財産。スターは長期契約の身体を維持し、宣伝ツアーとSNSまで一貫したブランドを要求された。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

女性・若年・非白人観客の購買力が可視化され、主役像は広がった。だが「誰に見せるか」が変わっても、制作上層部の投資判断は同じ速度で変わらない。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

肩と体幹、ブーツ、戦闘姿勢、素早い移動。身体は役の機能を語る一方、衣装は依然として性的輪郭を強調することがある。

COUNTER

Nyong'oやDavisは顔・声・年齢・肌の色を中心に運び、Lawrenceはアクションと不器用な親密さを接続した。多様性は一つの身体類型ではない。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

人気作で女性が増えても、台詞量、年齢、監督機会、予算規模は別の指標だ。数字が一つ改善しても、権力の配分まで改善したとは限らない。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



戦闘の前後に残る呼吸、疲労、傷。機能する身体が人物の情報になる瞬間は、完璧なポーズより、能力の代償を見せる時に強い。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「女性の身体は「救われる対象」から物語を駆動する主体へ進んだ。しかしその機能を成立させる訓練も、新しい規律として不可視化されやすい。」

走る、戦う、耐える。女性スターの身体は物語を止める見世物だけでなく、巨大な物語を動かす運動能力になった。だが細さと筋力は同時に要求された。

KEYWORDS

フランチャイズ／機能／体幹／訓練／表象格差

資料と検証の入口

S16 NIH | Women and resistance-training history

S17 USC Annenberg | Inequality in 900 Popular Films

S18 USC Annenberg | Inclusion at the Oscars, 2024

S25 Academy Awards Database

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

フランチャイズは、機能する身体へ。強調点は肩・体幹・走行・反応速度。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

理想体型より、役を生きる身体 へ

現在の前進は「理想体型が複数になった」だけではない。年齢、出自、筋力、傷、疲労、ぎこちなさまで、人物の情報として画面に残る場面が増えた。

代表スターを、順位ではなく星座で読む



REPRESENTATIVE NAMES

Michelle Yeoh／Emma Stone／Lily Gladstone／Zendaya／Florence Pugh／Cynthia Erivo／Mikey Madison／Jessie Buckley

ここでいう「代表」は興行成績だけの順位ではない。画面上の輪郭、衣装、演技、宣伝が時代の視線を最も鮮明に可視化する人物群を指す。複数のスターを並べることで、単一の理想像という幻想をほどく。

この時代の支配的な輪郭

顔

肩

胸

腰

脚

動き

単一の輪郭より、役ごとの差。鍛えた身体、柔らかな身体、年齢を刻んだ顔、衣装に埋もれる姿が、同じ中心を分け合い始めた。

強調点

存在感・年齢・個性差・役の内面

重要なのは「実在女優の身体がどうだったか」ではなく、カメラがどの線を残し、衣装がどの線を消し、宣伝がどのパーツを反復したかである。スクリーンの輪郭は、制作された情報だ。

レンズは、身体のどこを文章にしたか



配信の近距離画面と劇場の大画面が併存する。顔の微細な反応から全身の運動まで、作品ごとに最適な身体情報が選ばれる。

読解の要点

同じ身体でも、画面サイズ、レンズ、照明、編集順序が変われば意味は変わる。2020-2026の美は、身体の実事より視線の文法に宿る。

衣装は、身体を発明する

歴史衣装、実用品、ファンタジー、意図的な不格好さ。衣装が体型を矯正するより、人物の社会的位置と選択を語る例が増えた。

伸ばす

絞る

隠す

光らせる

動かす

類型化

衣装は身体に後から加わる飾りではない。肩線、腰位置、裾の速度、素材の反射が、観客に見える『体型』そのものを作る。スターの輪郭は、身体と布の共同制作である。

景気は、どんな夢に資金を出したか

パンデミック後の劇場再編、配信投資、IP依存、制作費圧力。市場が分裂したこと
で中心は複数化した。最高予算帯の判断は保守化しやすい。

現実への近さ



衣装の誇張



身体の機能



宣伝の反復



上の帯は統計値ではなく、本書の比較読解を可視化した概念図である。経済状況は身体を直接決めず、ジャンル、予算、撮影技術、宣伝回路を介して「安全な魅力」を選ぶ。

誰に見せ、誰が自分を見たか

米国では2025年、過去一年に映画館へ行った割合が女性54%、男性53%。観客としての女性の力は明確だが、主演への投資と自動的には一致しない。



観客の反応は一方向ではない。見られる身体は、欲望の対象、ファッションの提案、笑いの装置、反抗のモデルとして同時に読まれる。意味は画面だけで完結しない。

同じ時代の、別の身体言語

DOMINANT

単一の輪郭より、役ごとの差。鍛えた身体、柔らかな身体、年齢を刻んだ顔、衣装に埋もれる姿が、同じ中心を分け合い始めた。

COUNTER

2023～2026年の主演女優賞受賞者は異なる年齢・出自・演技身体を示す。一方、賞の多様化を産業全体の恒常的変化と同一視してはならない。

時代を一人の身体へ代表させない。支配的な輪郭と、それをずらすスターを同じページに置くと、美の基準が常に交渉の結果だったことが見える。

「普遍」の外に置かれた身体

UCLAの劇場映画調査では女性主演比率が2024年47.6%から2025年37.0%へ低下した。前進は直線ではなく、予算・公開規模・景気で揺り戻す。

人種

誰が普遍とされたか

年齢

いつ中心から外れるか

体格

差異が役柄化されたか

一場面を、輪郭ではなく作用で読む



人物が疲れ、老い、失敗し、それでも物語の中心に残る。身体が理想の説明ではなく、経験の記録として撮られる時、「本人の身体」が見え始める。

見る順序

☒人物は何をするか ☒衣装は何を可能にするか ☒カメラはどこで止まるか ☒物語はその身体に選択の時間を与えるか

この時代が次代へ残したもの

「2026年は到達点ではない。中心が増えたことと、中心への資金配分が安定したことは別問題だ。次の基準は、誰が長く主役でいられるかで測られる。」

現在の前進は「理想体型が複数になった」だけではない。年齢、出自、筋力、傷、疲労、ぎこちなさまで、人物の情報として画面に残る場面が増えた。

KEYWORDS

配信／複数の中心／年齢／役の身体／揺り戻し

資料と検証の入口

S20 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Theatrical Film

S21 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Streaming Film

S22 UCLA Newsroom | Theatrical-film diversity declined, 2026

S23 Pew Research Center | U.S. moviegoing habits, 2026

S24 Academy | Oscars ceremonies 2023–2026

本章の復元画像は実在人物の肖像ではない。史料で確認できる衣装・照明・画角の傾向をもとに、時代のシルエットを比較するために制作したフィクショナルな再構成である。

章の要約

理想体型より、役を生きる身体へ。強調点は存在感・年齢・個体差・役の内面。経済・技術・規制・観客の複数要因を、単純な因果にせず重ねて読む。

男性に魅せる身体

男性視線は「男性が見る」だけの話ではない。脚、胸、腰、唇を切り出し、行動より先に価値づける制作上の編集技術である。

言葉の輪郭を定める

視線は観客の性別ではなく、画角・照明・衣装・物語上の権力の配置として読む。女性観客も男性視線的な画面を見られるし、男性観客も主体的な女性像に同一化できる。

この章の命題

男性視線は「男性が見る」だけの話ではない。脚、胸、腰、唇を切り出し、行動より先に価値づける制作上の編集技術である。

定義を固定するのは、身体を一つの尺度で採点しないためである。本書は体型そのものではなく、視線・制度・市場が体型へ与えた意味を扱う。

視線が意味になるまで



この連鎖のどこか一つだけを変えても、全体は変わらない。配役を増やしても宣伝が同じパーツを強調すれば、古い意味が残る。衣装が変わっても物語上の選択がなければ、主体性は見せかけになる。

見る権力



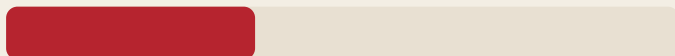
動く権力



語る権力



投資の権力



時代を横断する証拠

ピンナップ、Production Code下の暗示、1950年代のワイドスクリーン、2000年代の比較写真。技術は変わっても、身体を人物より先に読ませる順序が共通する。



一人のスターは時代を代表するのではなく、制度と交渉した痕跡を残す。突破例は制度の柔軟さを示すと同時に、なぜその人だけが例外になれたのかを問わせる。

前進の中に残る矛盾

可視性が増える
選択肢が増える
身体の機能が増える

監視も増える
新しい標準が生まれる
投資は揺り戻す

官能性は自動的に客体化ではない。Mae WestやPam Grierのように、見られることを利用して場面の主導権を奪う演技もある。

次に測るべきもの

問うべきは露出量ではなく、誰が見る順序を決め、人物に拒否・反撃・欲望する時間が与えられているかである。

- 誰が中心にいるか
- 何をする時間があるか
- 何度主役になれるか
- 誰が制作権を持つか

章の論点と参照資料

S07 Library of Congress | When Pre-Met Code

S08 National Film Registry | She Done Him Wrong

S10 National WWII Museum | Decoding WWII Plane Nose Art

S14 PubMed | Media exposure and body-image concerns

男性視線は「男性が見る」だけの話ではない。脚、胸、腰、唇を切り出し、行動より先に価値づける制作上の編集技術である。

資料は事実の足場であり、解釈のものではない。本書の因果関係は、単独の統計で証明するのではなく、映画史、衣装史、産業統計、画面分析を重ねて提示する。

女性に見せる身体

映画は女性を男性へ売っただけではない。服、髪、姿勢、仕事、移動の仕方を、女性観客へ提案する巨大なスタイル媒体でもあった。

言葉の輪郭を定める

憧れは服従と同義ではない。模倣、選択、拒否、皮肉、自己演出を含む。スクリーンの身体は、観客が自分の生活を再編集するための素材になる。

この章の命題

映画は女性を男性へ売っただけではない。服、髪、姿勢、仕事、移動の仕方を、女性観客へ提案する巨大なスタイル媒体でもあった。

定義を固定するのは、身体を一つの尺度で採点しないためである。本書は体型そのものではなく、視線・制度・市場が体型へ与えた意味を扱う。

視線が意味になるまで



この連鎖のどこか一つだけを変えても、全体は変わらない。配役を増やしても宣伝が同じパーツを強調すれば、古い意味が残る。衣装が変わっても物語上の選択がなければ、主体性は見せかけになる。

見る権力



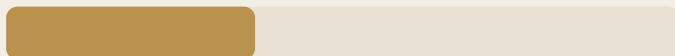
動く権力



語る権力



投資の権力



時代を横断する証拠

1920年代のボブ、1930年代のスーツ、1950年代の二重理想、1970年代のパンツ、1980年代のフィットネス。女性市場は美の基準を受け取るだけでなく変形した。



一人のスターは時代を代表するのではなく、制度と交渉した痕跡を残す。突破例は制度の柔軟さを示すと同時に、なぜその人だけが例外になれたのかを問わせる。

前進の中に残る矛盾

可視性が増える
選択肢が増える
身体機能が增える

監視も増える
新しい標準が生まれる
投資は揺り戻す

選択肢が増えても、「どれを選ぶか」が新しい義務になりうる。自己表現の市場は、自己監視の市場にもなる。

次に測るべきもの

2025年の米国映画館利用率は女性54%、男性53%。観客の力を、主演・監督・予算決定の力へどう接続するかが課題だ。



誰が中心にいるか



何をする時間があるか



何度主役になれるか



誰が制作権を持つか

章の論点と参照資料

S05 The Met | Dressing for the Cocktail Hour

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

S16 NIH | Women and resistance-training history

S23 Pew Research Center | U.S. moviegoing habits, 2026

映画は女性を男性へ売っただけではない。服、髪、姿勢、仕事、移動の仕方を、女性観客へ提案する巨大なスタイル媒体でもあった。

資料は事実の足場であり、解釈そのものではない。本書の因果関係は、単独の統計で証明するのではなく、映画史、衣装史、産業統計、画面分析を重ねて提示する。

女性自身を見せる身体

第三の段階は「美を捨てる」ことではない。身体が他者の評価を説明するためでなく、人物の経験・能力・選択を伝えるために存在する。

言葉の輪郭を定める

本人の身体とは、自然体の同義語ではない。訓練、衣装、演技、老化、傷、声、呼吸を含み、役を生きるために選び取られた具体性である。

この章の命題

第三の段階は「美を捨てる」ことではない。身体が他者の評価を説明するためでなく、人物の経験・能力・選択を伝えるために存在する。

定義を固定するのは、身体を一つの尺度で採点しないためである。本書は体型そのものではなく、視線・制度・市場が体型へ与えた意味を扱う。

視線が意味になるまで



この連鎖のどこか一つだけを変えても、全体は変わらない。配役を増やしても宣伝が同じパーツを強調すれば、古い意味が残る。衣装が変わっても物語上の選択がなければ、主体性は見せかけになる。

見る権力



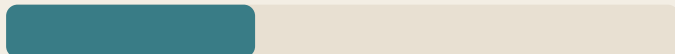
動く権力



語る権力

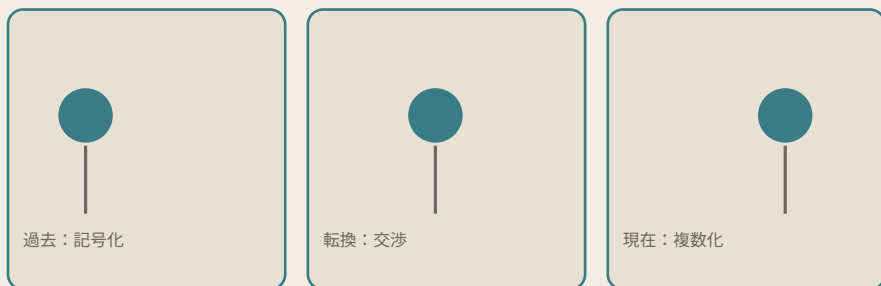


投資の権力



時代を横断する証拠

Ripleyの仕事をする身体、アクション・ヒロインの機能、役作りによる変身、2020年代の年齢差と個体差。魅力は結果ではなく過程から生まれる。



一人のスターは時代を代表するのではなく、制度と交渉した痕跡を残す。突破例は制度の柔軟さを示すと同時に、なぜその人だけが例外になれたのかを問わせる。

前進の中に残る矛盾

可視性が増える
選択肢が増える
身体の機能が増える

監視も増える
新しい標準が生まれる
投資は揺り戻す

「強い女性」も一つの型になれば、弱さや依存や疲労を排除する。主体性は常に勝つことではなく、失敗しても物語の中心から退場しない権利にある。

次に測るべきもの

次のスクリーンは、身体の多様性だけでなく、身体が変わる時間を主役のまま撮れるかを問われる。



誰が中心にいるか



何をする時間があるか



何度主役になれるか



誰が制作権を持つか

章の論点と参照資料

S16 NIH | Women and resistance-training history

S17 USC Annenberg | Inequality in 900 Popular Films

S18 USC Annenberg | Inclusion at the Oscars, 2024

S24 Academy | Oscars ceremonies 2023–2026

第三の段階は「美を捨てる」ことではない。身体が他者の評価を説明するためでなく、人物の経験・能力・選択を伝えるために存在する。

資料は事実の足場であり、解釈のものではない。本書の因果関係は、単独の統計で証明するのではなく、映画史、衣装史、産業統計、画面分析を重ねて提示する。

景気は、身体の夢を変える

経済は体型を直接決定しない。だが、どの映画に資金が集まり、どの衣装が映え、誰が安全な投資と見なされるかを通じて、理想の輪郭を選別する。

言葉の輪郭を定める

不況＝ふくよか、好況＝細身、という単純な相関は成り立たない。大恐慌が流線形の贅沢を売り、戦時が実用とピンナップを併存させたように、画面は現実への補償も行う。

この章の命題

経済は体型を直接決定しない。だが、どの映画に資金が集まり、どの衣装が映え、誰が安全な投資と見なされるかを通じて、理想の輪郭を選別する。

定義を固定するのは、身体を一つの尺度で採点しないためである。本書は体型そのものではなく、視線・制度・市場が体型へ与えた意味を扱う。

視線が意味になるまで



この連鎖のどこか一つだけを変えても、全体は変わらない。配役を増やしても宣伝が同じパーツを強調すれば、古い意味が残る。衣装が変わっても物語上の選択がなければ、主体性は見せかけになる。

見る権力



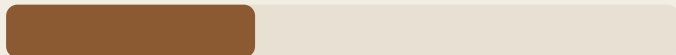
動く権力



語る権力

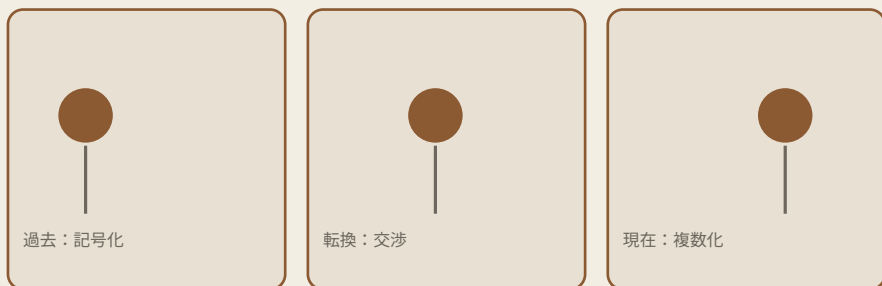


投資の権力



時代を横断する証拠

1930年代の逃避、1940年代の国家動員、1950年代のテレビ競争、1970年代の自然主義、1990年代の世界市場、2020年代の配信分裂。



一人のスターは時代を代表するのではなく、制度と交渉した痕跡を残す。突破例は制度の柔軟さを示すと同時に、なぜその人だけが例外になれたのかを問わせる。

前進の中に残る矛盾

可視性が増える
選択肢が増える
身体の機能が増える

監視も増える
新しい標準が生まれる
投資は揺り戻す

景気の説明だけでは、規制、人種、ジェンダー運動、技術、個々のスターの交渉力を消してしまう。経済は原因ではなく、選択肢の地形である。

次に測るべきもの

最高予算帯が保守化する時、低・中予算や配信が新しい中心を作れるか。多様性を一時的な市場トレンドで終わらせない資金構造が必要だ。



誰が中心にいるか



何をする時間があるか



何度主役になれるか



誰が制作権を持つか

章の論点と参照資料

S13 Cambridge | Postwar Challenges to Hollywood

S19 UCLA | Hollywood Diversity Report 2025: Theatrical Film

S20 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Theatrical Film

S21 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Streaming Film

S22 UCLA Newsroom | Theatrical-film diversity declined, 2026

経済は体型を直接決定しない。だが、どの映画に資金が集まり、どの衣装が映え、誰が安全な投資と見なされるかを通じて、理想の輪郭を選別する。

資料は事実の足場であり、解釈のものではない。本書の因果関係は、単独の統計で証明するのではなく、映画史、衣装史、産業統計、画面分析を重ねて提示する。

「理想」の外側に置かれた人々

ハリウッドの理想体型は、サイズだけの問題ではない。人種、年齢、障害、階級、セクシュアリティが交差し、誰の身体が物語の中心に長く留まれるかを決めてきた。

言葉の輪郭を定める

可視化と中心化は別である。画面にること、台詞があること、欲望されること、物語を選ぶこと、制作権を持つことは別々の段階だ。

この章の命題

ハリウッドの理想体型は、サイズだけの問題ではない。人種、年齢、障害、階級、セクシュアリティが交差し、誰の身体が物語の中心に長く留まれるかを決めてきた。

定義を固定するのは、身体を一つの尺度で採点しないためである。本書は体型そのものではなく、視線・制度・市場が体型へ与えた意味を扱う。

視線が意味になるまで



この連鎖のどこか一つだけを変えても、全体は変わらない。配役を増やしても宣伝が同じパーツを強調すれば、古い意味が残る。衣装が変わっても物語上の選択がなければ、主体性は見せかけになる。

見る権力



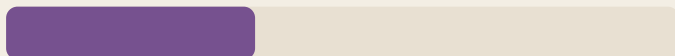
動く権力



語る権力

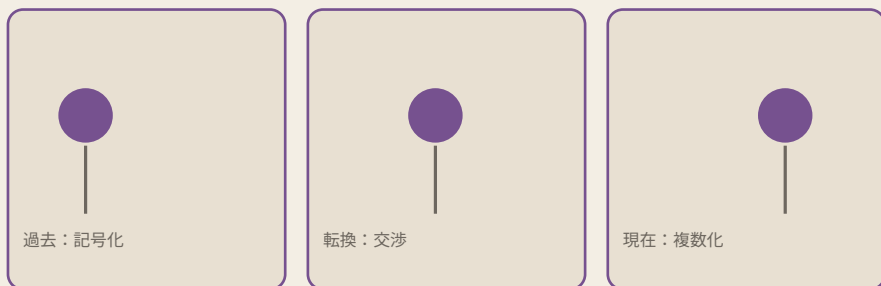


投資の権力



時代を横断する証拠

Anna May Wong、Dorothy Dandridge、Lena Horne、Pam Grier、Whoopi Goldberg、Angela Bassett、Michelle Yeoh、Lily Gladstone。各人の突破は同じ障壁を意味しない。



一人のスターは時代を代表するのではなく、制度と交渉した痕跡を残す。突破例は制度の柔軟さを示すと同時に、なぜその人だけが例外になれたのかを問わせる。

前進の中に残る矛盾

可視性が増える
選択肢が増える
身体機能が增える

監視も増える
新しい標準が生まれる
投資は揺り戻す

一人の成功を「解決」の証拠にすると、同じ属性の他者に道が開いたかを見失う。
例外的スターは、制度の柔軟さと硬さを同時に示す。

次に測るべきもの

年齢、体格、障害を「役の特徴」に限定せず、恋愛、冒険、喜劇、権力の中心へ置く。多様性の質はジャンルの幅で測られる。



誰が中心にいるか



何をする時間があるか



何度主役になれるか



誰が制作権を持つか

章の論点と参照資料

S11 Smithsonian | Anna May Wong

S17 USC Annenberg | Inequality in 900 Popular Films

S18 USC Annenberg | Inclusion at the Oscars, 2024

S20 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Theatrical Film

ハリウッドの理想体型は、サイズだけの問題ではない。人種、年齢、障害、階級、セクシュアリティが交差し、誰の身体が物語の中心に長く留まれるかを決めてきた。

資料は事実の足場であり、解釈のものではない。本書の因果関係は、単独の統計で証明するのではなく、映画史、衣装史、産業統計、画面分析を重ねて提示する。

複数の中心、なお不安定

2026年のスクリーンには、かつてより多くの年齢・人種・身体言語が見える。しかし、劇場映画の女性主演比率は前年から下がり、前進が制度化されていないことも見える。

言葉の輪郭を定める

UCLAの劇場映画調査では、女性主演比率は2024年47.6%から2025年37.0%へ10.6ポイント低下。これは作品の質ではなく、中心へ投資された機会の揺れを示す。

この章の命題

2026年のスクリーンには、かつてより多くの年齢・人種・身体言語が見える。しかし、劇場映画の女性主演比率は前年から下がり、前進が制度化されていないことも見える。

定義を固定するのは、身体を一つの尺度で採点しないためである。本書は体型そのものではなく、視線・制度・市場が体型へ与えた意味を扱う。

視線が意味になるまで

可視性 ↑ ／ 投資の安定性 ☒ ／ 観客力 ☒ 意思決定力

この連鎖のどこか一つだけを変えても、全体は変わらない。配役を増やしても宣伝が同じパーツを強調すれば、古い意味が残る。衣装が変わっても物語上の選択がなければ、主体性は見せかけになる。

見る権力



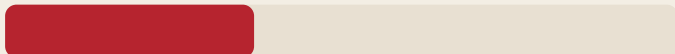
動く権力



語る権力



投資の権力



時代を横断する証拠

2023～2026年の主演女優賞はMichelle Yeoh、Emma Stone、Mikey Madison、Jessie Buckley。受賞像は広がっても、一本の賞レースで産業全体は測れない。



一人のスターは時代を代表するのではなく、制度と交渉した痕跡を残す。突破例は制度の柔軟さを示すと同時に、なぜその人だけが例外になれたのかを問わせる。

前進の中に残る矛盾

可視性が増える
選択肢が増える
身体機能が增える

監視も増える
新しい標準が生まれる
投資は揺り戻す

配信は多様な主役を生みやすい一方、作品の発見可能性と長期保存に別の不安を持つ。劇場は文化的可視性が高い一方、最高予算帯ほど安全策へ寄りやすい。

次に測るべきもの

2026年を到達点ではなく測定点にする。
問うべきは、誰が主役になれるか、何度
なれるか、年齢を重ねても中心に残れる
か、制作権を持てるかだ。



誰が中心にいるか



何をする時間があるか



何度主役になれるか



誰が制作権を持つか

章の論点と参照資料

S20 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Theatrical Film

S21 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Streaming Film

S22 UCLA Newsroom | Theatrical-film diversity declined, 2026

S23 Pew Research Center | U.S. moviegoing habits, 2026

S24 Academy | Oscars ceremonies 2023–2026

2026年のスクリーンには、かつてより多くの年齢・人種・身体言語が見える。しかし、劇場映画の女性主演比率は前年から下がり、前進が制度化されていないことも見える。

資料は事実の足場であり、解釈のものではない。本書の因果関係は、単独の統計で証明するのではなく、映画史、衣装史、産業統計、画面分析を重ねて提示する。

身体は、社会の景気を映す

大恐慌は細い流線形を、戦時は実用的な肩とピンナップの脚を、戦後繁栄は二つの理想を、金融化は鍛えた自己管理を、デジタル化は常時比較を、配信時代は複数の中心を生んだ。だが経済は体型を命令したのではない。どの夢へ資金を出すかを選んだ。

スクリーンの美は、現実の身体をそのまま映す鏡ではない。現実から何を消し、何を拡大し、何を買える夢へ変えたかを示す加工面である。

女性の身体は、社会の視線を映す

男性に魅せる身体から、女性に見せる身体へ、そして女性自身を見せる身体へ。この三段階は一直線ではない。三つの視線はいまも同じ作品、同じスター、同じ一場面に重なっている。

前進を測る基準は、理想体型の種類だけでは足りない。誰が欲望し、誰が動き、誰が失敗し、誰が年齢を重ね、誰が制作権を持ったまま中心に残れるか。身体史は、主体の持続時間の歴史へ進む。

1876—2026 視線の長い地図

- 1870s-1900s 動く像の発明／見世物の身体
- 1910s 顔と手／スターの誕生
- 1920s 脚と速度／都市の新しい女
- 1930s 背中と流線形／不況の夢
- 1940s 肩と脚／戦時の二重像
- 1950s 曲線と細い線／二重理想
- 1960s 長い脚／若者市場
- 1970s 姿勢と余白／生活の身体
- 1980s 筋肉／自己管理
- 1990s 長い線と顔／世界市場
- 2000s パーツと変身／常時監視
- 2010s 体幹と機能／フランチャイズ
- 2020s 個体差と役／複数の中心

主要參照資料

S01 Library of Congress | Mary Pickford: Queen of the Movies

<https://blogs.loc.gov/loc/2013/03/mary-pickford-queen-of-the-movies/>

S02 Library of Congress | The Survival of American Silent Feature Films

https://www.loc.gov/static/programs/national-film-preservation-board/documents/pub158.final_version_sept_2013.pdf

S03 National Film Registry | Tess of the Storm Country

https://www.loc.gov/static/programs/national-film-preservation-board/documents/tess_storm_country.pdf

S04 Library of Congress | Film & Sound Festival / Clara Bow

<https://www.loc.gov/events/film-and-sound-festival/festival-information/>

S05 The Met | Dressing for the Cocktail Hour

<https://www.metmuseum.org/essays/dressing-for-the-cocktail-hour>

S06 The Met | Adrian suit, 1948

<https://www.metmuseum.org/art/collection/search/83117>

S07 Library of Congress | When Pre-Met Code

<https://blogs.loc.gov/now-see-hear/2014/07/when-pre-met-code-eighty-years-ago-today/>

S08 National Film Registry | She Done Him Wrong

https://www.loc.gov/static/programs/national-film-preservation-board/documents/she_done.pdf

S09 National Film Registry | Down Argentine Way

https://www.loc.gov/static/programs/national-film-preservation-board/documents/down_argentine.pdf

S10 National WWII Museum | Decoding WWII Plane Nose Art

<https://www.nationalww2museum.org/war/articles/decoding-wwii-plane-nose-art>

S11 Smithsonian | Anna May Wong

<https://americanhistory.si.edu/explore/stories/anna-may-wong>

S12 Cambridge | Hollywood and Beyond: Fashion

<https://www.cambridge.org/core/books/cambridge-global-history-of-fashion/hollywood-and-beyond/61106C6EA36757D28CA5EE1240EFFAAC>

S13 Cambridge | Postwar Challenges to Hollywood

<https://www.cambridge.org/core/books/film-histories/postwar-challenges-national-regeneration-huac-investigations-divestiture-and-declining-audiences/CE9DB741659BF952404974E6192952E1>

主要參照資料

S14 PubMed | Media exposure and body-image concerns
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/18444705/>

S15 NIH | Thin-ideal media exposure
<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC2533817/>

S16 NIH | Women and resistance-training history
<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC12421175/>

S17 USC Annenberg | Inequality in 900 Popular Films
https://annenberg.usc.edu/sites/default/files/Dr_Stacy_L_Smith-Inequality_in_900_Popular_Films.pdf

S18 USC Annenberg | Inclusion at the Oscars, 2024
<https://annenberg.usc.edu/news/research-and-impact/inclusion-oscars-whats-changed-2024>

S19 UCLA | Hollywood Diversity Report 2025: Theatrical Film
<https://socialsciences.ucla.edu/wp-content/uploads/2025/03/UCLA-Hollywood-Diversity-Report-2025-Theatrical-Film-2-27-2025.pdf>

S20 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Theatrical Film
<https://socialsciences.ucla.edu/wp-content/uploads/2026/03/UCLA-Hollywood-Diversity-Report-2026-Theatrical-Film-3-12-2026.pdf>

S21 UCLA | Hollywood Diversity Report 2026: Streaming Film
<https://socialsciences.ucla.edu/wp-content/uploads/2026/06/UCLA-Hollywood-Diversity-Report-2026-Streaming-Film-6-17-2026.pdf>

S22 UCLA Newsroom | Theatrical-film diversity declined, 2026
<https://newsroom.ucla.edu/releases/theatrical-film-industry-declining-diversity-march-2026>

S23 Pew Research Center | U.S. moviegoing habits, 2026
<https://www.pewresearch.org/short-reads/2026/03/06/as-the-academy-awards-approach-a-look-at-moviegoing-habits-in-the-united-states/>

S24 Academy | Oscars ceremonies 2023–2026
<https://www.oscars.org/oscars/ceremonies/2026>

S25 Academy Awards Database
<https://awardsdatabase.oscars.org/>

美の基準は、 身体そのものではなく、 身体を見る仕組みに宿る。



男の欲望、女の憧れ、そして本人の身体へ。
次巻では、ヒーローの身体と男らしさの変遷を追う。